



ほほえみ

第282号

令和4.4.1発行

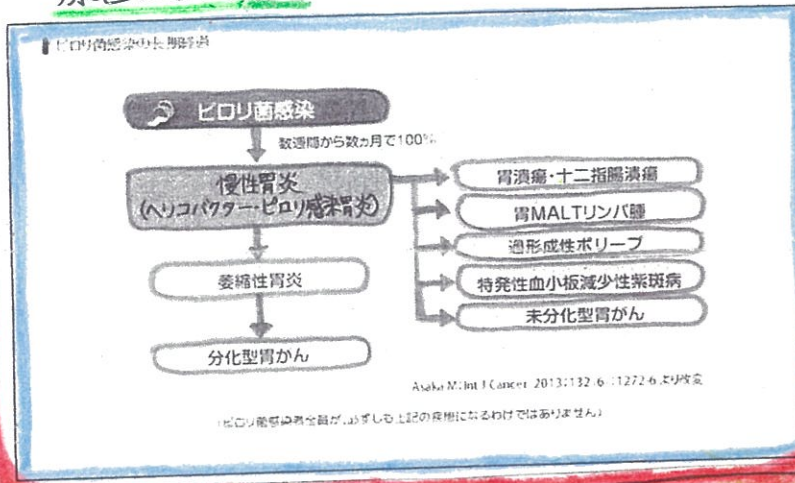
今回のテーマは ピロリ菌についてです

【ピロリ菌の感染経路】

感染経路ははっきりしていませんが、ピロリ菌は幼年期に衛生環境が良くなかった年代に感染している人が多く、環境の整った現代では、感染している人の数が低下しています。また、乳幼児期にピロリ菌に感染している大人から小さい子供への食べ物の口移しなどは感染させる危険があります。5〜6歳以下の幼児は免疫力が弱く、胃酸酸度は分泌量が低く、ピロリ菌が胃内で生き続けやすい環境であるのも要因の一つです。

【ピロリ菌によって引き起こされる疾患】

ピロリ菌に感染しても初期には自覚症状はありません。しかし、長年放置している間に胃炎・胃潰瘍や萎縮性胃炎、十二指腸潰瘍さらには胃がんの原因にもなります。



【ピロリ菌の検査】

- 検査方法
- ① 採血による抗体測定
 - ② 吐く息の中に含まれる尿素呼吸試験
 - ③ 便中の抗原測定

*内視鏡検査で慢性胃炎と診断され、慢性胃炎の治療にピロリ菌検査、除菌が必要と判断された場合のみ、保険適用になります。

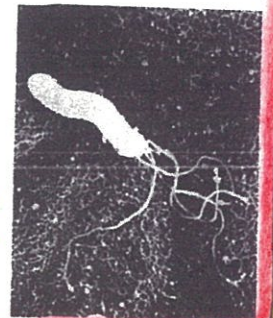


【ピロリ菌とは】

正式名は「ヘリコバクター・ピロリ」といいます。ピロリ菌に感染すると、ピロリ菌が作り出す酵素「尿素ゼ」が胃の中の尿素が反応して発生するアンモニアなどによって直接胃の粘膜が傷つけられたり、ピロリ菌から胃を守ろうとするための生体防御反応である免疫反応により胃の粘膜に炎症が起こります。ピロリ菌に感染している状態が長く続くことで、様々な病気を引き起こす可能性もあります。

【ピロリ菌の特徴】

- 酸素にさらされると、発育せず徐々に死滅します。
- 大きさは0.5×2.5〜4.0μmで数本のペリ毛を持ち、胃の中を移動します。



【除菌方法】

ピロリ菌に感染していることが分かったら除菌療法を行います。ピロリ菌除菌療法は、複数の薬剤を用いて行われます。

除菌療法中に注意すること

- 除菌療法の副作用
 - ① 軟便・下痢
 - ② 味覚異常
 - ③ AST(GOT)やALT(GPT)の変動
 - ④ アレルギー反応
 除菌療法の間、気になる症状を感じた場合は主治医または薬剤師に相談して下さい。
- 一次除菌中は禁煙になります。(二次除菌中も!)
喫煙は胃粘膜血流を低下させることが知られています。そのため、抗菌薬の胃粘膜濃度が低下して除菌率低下をきたす可能性があります。
- 一次・二次除菌中ともに、アルコール摂取を避けていただきます。薬物相互作用として、薬物療法が使われる薬剤が飲酒によって腹痛、嘔吐、ほろりなどが現れることがあります。

二次除菌の失敗

保険診療下で可能な治療は二次除菌までです。二次除菌まで行って失敗する方は、100人のうち、2-3人程度です。以後は、自由診療による治療となります。